

会 議 録

1. 付属機関等の会議の名称 第5回 地域づくり会議

2. 開催日時 2024年12月12日（木） 18時30分から20時30分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 協議会室

4. 地域づくり会議委員（順不同、敬称略）

（出席）

北沢 毅、篠田 阿依、北林 南、熊谷 久美、正井 亜紀、伊藤 瑞記、
市瀬 森友、北原 太志郎、久保田 菜美子、池野 明理、井澤 将太

（欠席）

宮澤 由美子、田中 大也、北村 朝子、中島 拓也、下澤 綾子

事務局（まちづくり政策課）

松尾課長、大橋係長、林主査、元木主任

5. 議題（公開）

- （1） 第6次松川町総合計画（案）について
- （2） その他

6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

7. 傍聴人の数

—

8. 会議資料の名称

- ・添付のとおり

9. 会議の概要

(1) 開会

(2) 課長あいさつ

(4) 会議事項

①第6次松川町総合計画（案）について

質疑応答

(委員)

松川町第6次総合計画（案）、その6ページの、リニアは2034年以降と言っていた気がするのですが、令和9年じゃなく令和16年になるかなと思うのですがいかがでしょうか。

(事務局)

34年はJR東海の公式見解ではなくて、工事の工程表を見ていくとおそらく10年だろうということなので、飯田下伊那のいろいろな計画では、やっぱり表現としてはこの表現ということでご理解いただけたらと思います。

(委員)

29ページの7初等・中等教育のところ、1個はここに書ききれないと思うんですけど、一応言いますね。しごと未来フェア、4番のところ、想定する取り組みの4番、てらこや松中、しごと未来フェアによるキャリア教育の拡充ってあるんですけど、仕事って雇われることだけじゃないと思うんですよね。さっき1番最後、24番が事業創造じゃないですか。で、起業のための支援とかっていうふうに、大人向けですよ、この24番は。

しごと未来フェア、えみりあでやっていたのをチラッとたまたま見たんですけど、なんかやっぱり、全体的なその資料を見たんですけど、雰囲気として、雇われる前提みたいな、どうしたら雇ってもらえるとか、どうしたら採用してもらえたらいいみたいな雰囲気をちょっと感じたんですけど、いやそうじゃなくて、自分で仕事を作るっていうこともあるよねっていう、その前提としてあって欲しいなと思いました。子どもたちに。もちろん、子どもたちはね、わかってる子たちいると思うんですけど、それ含めてのキャリア、そのキャリア教育もあんまり変わってなくて残念って感じなんですけど。自分が子どもだった頃と内容が同じっていうか、変わらないなみたいな感じはあるんですけど、そこはなんか伝えていきたいなっていう、大人として思いました。

(事務局)

キャリア教育っていうのは、やっぱりこの場ですごい議論が出たなっていうのは私ども記憶しています。なので、事業構造の方には、ここのアントレプレナーシップ教育を核としたということで、私どもの手の方で何かできることはないかということで、一応載せてもらっているところがありますので、ここは子育て分野も絡んでくるかなと思いつつ、載せてはいます。

(委員)

7番の登校できない子どもたちへの支援って書いてあるんですけど。ごめんなさい、個

人的にここどうしても。登校できないじゃないんですよ。できない子もいます。登校できないじゃなくて、しない子もいるんですよ。主体的に。なので、できないってなっちゃうと、今までの、それこそ1番最初にありましたけど固定観念で、学校は行くべきもの、行って当たり前、なんで行けないんだっていう、うっすらそれができないっていう言葉に感じちゃうんですよ。私。ごめんなさい。なんですけど、登校しないとか、学校以外も、ホームスクール、自宅で学ぶもそうだし、別の場所で学ぶもあるし、学校を否定してるわけじゃないんですけど、登校できないってなっちゃうと、仕事も一緒なんですよ。一般的な就労も一緒なんですよ。仕事に行けない、行けないのかもしれないけど、なんというか、ちょっとごめんなさい。言葉が難しいんですけど。登校していないとか、例えばそういう状態ですよ。登校していない。それは本人の意思とか、なんて言うのかな、できないのかもしれないし、しないのかもしれないけど、していないっていう状態はしていないだと思うんですよ。なんかそういう書き方にできないかなって。

(事務局)

最初是不登校的なニュアンスだったんで、そのフレーズは変えました。

(委員)

変えたことはわかるんですけど、できないってなると、できる・できない、可・不可、マル・バツかみたい感じるので、登校していないとか、する時もあるししない時もあるんだけど、とか。

(事務局)

ひとまず、一通りご意見いただいて。ちょっとここでは回答できない部分もあるので、また担当の課だとかそういったところに相談して反映させれるところは反映していくので、一旦全部ご意見いただいてと思っています。

(委員)

42 ページ、6月のまつかわマイプロジェクトに参加してるからちょっとあれなんですけど、中学生から若者を中心にしたっていうのは、中学生まで対象を広げるっていうので大丈夫ですかね。今、高校生からマイプロジェクトは対象としてやっていると思うんですけど、中学生ってのはどういう意味で対象っていうふうにしていますか。

(事務局)

策定委員会とか役場の職員と話し合った時も、それこそイトウリョウタさんもこの話した時に、話になったんですけど、どっちかっていうと多世代コミュニティ創出って言葉で言っちゃうとありきたりな言葉になっちゃうんですけど、世代にこだわらないコミュニティが創出できたらいいよねっていうイトウさんの思いがあって、それを今は高校生の方から対象だと思うんですけど、その取り組みの、今やってる中心のやつはマイプロジェクトなので、という意味合いです。

現時点で、多分、広げる・広げないっていう具体的な検討を持ってるわけではないと思

うんですけど、想いとしてはそういうことがあって、一応、もうちょっと広げていきたいよねっていうニュアンスでたぶん中学生から、たぶんって言っちゃいけないんですけど、中学生からっていう意味になってるっていうこと。

(委員)

気持ちはすごいわかるんですけど、まずはこの後ろに多世代コミュニティって書くんだったら、中学生じゃなくて小学生も含めたらいいじゃんとか、じゃあ 6 年生でもいいですし、わざわざ多世代コミュニティって書くんだったら、中学生から若者を中心としたってなってるのはどうかなって。まつかわマイプロジェクトの対象が中学生から若者なのかなっていうふうにこの、言葉のあれですけど思っちゃうので、そういう意味だったら中学生からっていうのもちょっと省いた方がわかりやすいかなって自分的に思いました。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。悩ましい部分ですので、また担当とも相談しながら言い方は考えていきます。

(委員)

15 ページ、新しく出してくれた 15 ページの自然災害のところに、消防団の維持、在り方の検討っていうのがあるんですけど、1 回目の時に皆さん出してもらって、昔の消防団も、今いないですよ、OB の方。やっぱり昔の消防団のイメージがあって、出たくないっていう親御さんが結構いるんですよ。なので、そういう意見を出してもらって、さっきの、ここまでの経過っていうやつに、1 回目の時に、組織の運営見直し、出たと思うんですけど。今の組織を、組織じゃなくてそのシステムを撤廃して、今の、消防団に来てくれる、協力してくれる若者が来てくれるようなことをして欲しいっていう、そういうのも 1 回目の会議で出たはずなんですけれど、ちょっと反映されてなかったの。

(事務局)

それはそうすると、時代に応じた消防団運営的なニュアンスの方であって欲しい、そういう話ですよ。より、もうちょっと踏み込んだ言い回しってところで。

ここ数年で、前の団長が結構やってくれてもいるので、そこでかなり変わったっていうところの状況もあって、そこを上手にこの総合計画の中に、この消防団の維持っていうだけじゃなくて、何かうまく言い回しというか、今の現状に合った消防団活動みたいなところを盛り込めれば良いような感じで、総務課の方も本部の方も新体制で走り出しているかと思うので、ここら辺の対応も含めながらというところで、そうですね、このところはもう 1 回ちょっと担当課の方に投げかけたいと思います。ありがとうございます。

(委員)

子どもがいて、夫婦共働きで働きながら子育てをしてるんですけど、結構その松川町の一時保育の仕組みだったりとか保育園の仕組みっていうのが、たぶん使用者側にとっても、その職員さんにとっても負担が大きい仕組みだなと感じていて。例えば利用者側からする

と、例えば一時保育っていうシステムがあるんですけど、それも結局、預けられる保育園が非常に限られていて、そこでもし僕ら両方とも風邪ひいちゃって子ども預けなきゃいけないみたいな時に、その 1 件で断られてしまうともう預けることができないだったりとか、そこもしか LINE だったりとかカレンダーで空きが確認できるわけではなくて、当日その限られた時間内に電話しなければならないとかっていう中で、例えば、別にコストかけなくても、公式 LINE の登録だったりとか、カレンダー、そういう予約システムの導入だったりとかっていう部分を導入してあげたりとかするだけで、現場の職員さんが例えば電話に出なくてもいいし、例えば書類関係だったりとかも、多分 Google フォームだったりとかマイクロソフトのそういったフォームツールを提供しているので、それをこうセキュリティ的に安全が担保できる形でフォーム形式にしてあげれば、アンケートとか申込書とかも例えばこちらでもウェブから申し込みができるし、職員さんの負担が軽減できるみたいなことが実現できるのかなと思う。やっぱり保育園関係の費用の支払いも、一時保育を利用して、支払いもわざわざ役場に来なければならないっていうところがあって、役場に来て、一度そのこども課の方で書類を受け取って、それを会計の方に持って行って、現金支払いするみたいなところがあって、これなんか普通に PayPay でいいじゃんみたいなところがめちゃくちゃあってですね、なんかそういったところで、例えば子ども 2 人連れて、役場でその待ち時間をちょっと周りの皆さん仕事してる中で 5 分 10 分待ちながら騒ぐ子どもをなだめてみたい、結構親からしたら割とストレスだったりするので、そういったところで、なんて言うんですかね、もうちょっとこう、利用者側ももっと使いやすいとか、職員さん側も現金を扱う必要がなくなるとか、そういった、もっとこう両者にとって負担が少ないシステムをおそらく予算かけずに更新可能だと思うので、なんかそういったところで特色、保育園の特色を出すのはすごい大事だと思うんですけど、その前段階として、やっぱり使いやすい、ストレスなく住民が利用できる形っていうのをちょっと作っていただきたいなと思っています。

（事務局）

ありがとうございます。まさにこの時代に即した子育てオペレーションと、役場のオペレーション、噛み合っていないんじゃないのというようなお話だったかと思います。DX 化みたいな部類に入ってくるし、なかなかその子育て分野とかの部署でも苦手とするジャンルだになってところもあったりするんで、そういったところをですね、どういうふうに変えていくかっていうところでもありますね。今、DX 推進要領っていうところで、またこれの計画とは別個で、今後作っていくっていうものがありますので、そういったものの中に今のようなご視点が反映できるようにまた伝えていきたいと思っていますので、ご意見ありがとうございます。

（委員）

29 ページの初等・中等教育のところにんですけど、あんまり事業としてのところじゃない

んですけど、大本のこの重点的に取り組むにあたっての視点っていうのが、書いてくださっていて、教育のところにごく多く書いてあるなってすごく思ったんですけど、その中で、1個目の丸なんですけど、地域の自然や生活、歴史や文化の学習、スポーツを通して豊かな感性と郷土愛を育て、学校と地域、保護者が連携して自らの夢を実現し、世界に挑戦するたくましい児童・生徒の育成を目指すためのよりよい教育っていう、なんか、世界に挑戦するたくましい児童育成しか目指さない、なんかすごく、郷土愛とか、連携して、自らの夢を実現しようねとか言っているが、世界に挑戦するたくましい生徒っていうのは、なんかそう、不思議な気持ちになっちゃって。

(事務局)

ありがとうございます。教育委員会に確認しつつ、これで行くんだったらこれで行くかもしれませんが、ご意見として承ります。ありがとうございます。

(委員)

個別の内容についてことではないんですけども、もうちょっと、枠組みのところで質問なんですけど。いくつかありますが、成果指標ってそれぞれのページに書いてありますが、この成果指標っていうのはウェルビーイング指標としても一般的にある指標ってことなんですよ。

(事務局)

そうですね、これが成果指標、全国の標準的な設問ってことになっていますので、この設問を取ることによって、他の市町村とも比べることができるっていうような形になってます。

(委員)

わかりました。あと、目標値っていうのはどうやって立ててるのか、で、また維持とか上昇とかっていうのはどういう根拠で、平均より上であればもう維持にされていて、低ければもう上昇を目指そうっていう、単純にそういうことかなと思いますけど。この目標値っていうのは、数字はどうやって置いてるんですかね。

(事務局)

お見込みのとおりですっていうところでして、弱い部分について、でも、例えば子育ての部分とかそういったものについてはこれから重点的にやっていくんだっていう話になっているので、であれば平均以上になっていかないといけないよねっていうようなロジックですし、ある意味でも例えば地域のつながりとか、自然環境なんかも今マックス取れているので、これはさらにこれ以上いくぜってのは無理なので、維持していこう、維持していく取り組みっていうふうに着目をしてやる、そういった数字にしております。なんで、伸ばしていきたいっていう部分については、とりあえずまずは長野県の平均値ぐらいまでは行こうよっていうところで設定しています。特別な事情がない限り。そのような形で整理しています。

(委員)

わかりました。もう 1 つですね、これまたアンケートを毎年これから取って、目標値に対してどうかという数字見ていくと思うんですけど、この成果指標と想定する取り組みってというのは、そことの関連ってなかなか分析って難しいかなと思うんです。成果指標と取り組みとの分析、何が足りなかったからまだ数値が低いままなのかとかいうのは、どうやって分析されていくのかなってというのはちょっと素朴な疑問っていうか。

(事務局)

これをこれだけやりましたっていうのが多分いろいろな課から報告が出てくるんですが、やったけれどここ動いてないよねとか、そういったところから議論をしていく、事業の見直しをしていくというような使い方をしたいと考えておりますので、そういったところで、アウトプットじゃなくてアウトカムっていうところに重きを置きつつ、アウトカムからまたアウトプットの方へ戻って行って、ただやればいいってもんじゃないというところで見直しをしてくというところで、まだそこはちょっと手探りなところもあるんですが、やっていきたいと考えています。

(委員)

あともう 1 個ですね。想定する取り組みは多分、行政の皆さんがね、これまでの経験とか住民の方々等も踏まえて、町としてはこれやるべきってことで多分あげてる事業だと思うんですけど、このまちづくり会議の意見を踏まえて、新たに出てきた取り組み項目みたいなのはあるんですかね。というか、行政として元々あった事業に、まちづくり会議で出てきた意見はここに当てはまるよねっていう、基本はそういうことなのかもしれないですけど、新規にこの会議が基に出てきた取り組みっていうのがもしあれば、と思ってですね。

(事務局)

ここにですね、基本方針、行政施策ってことでこれだけぶら下がってて、110 ちょっとぐらいあったんですね。それが、今回想定する取り組み 150 項目になってますんで、この差分がおおむねこの会議で出てきたもの、新たに出てきたというふうに思っていると思います。

(事務局)

どちらもあるかなというふうに思っていて、今までの取り組みがありつつ、皆さんから出てきたご意見があったので、例えばこの日赤との連携とかも、あんまり踏み込んだことを今の計画では書いてなかったんですけど、やっぱりそうじゃなくて、きちんと役場といろんな機関連携しながらやっていかなきゃダメだよなっていうふうに踏み込んで書かせてもらったものとか、ちょっとグラデーションはいろいろあるんですけど。

(委員)

いろいろとお話を伺う中で、私は 20 年前にここで子育てをしていたので、その当時、旦那が豊丘の方で消防団をやっていたりすることを思うと、全くアップデートされてないと

ということがよくわかりました。今1歳と3歳の方がおいでになれる方も、私と同じように預けるところに困って、消防団に関わってる方は、本当もう疲弊しながらというか、それでも地域のために取り組んでいるっていうことを今またここで伺ったことを思うと、本当にこれからの時代が予測不可能な時代になりますよね。2040年に80歳以上が人口の半分っていう、世界に類を見ない国になるっていうことですよね。それを目指して今、国は動いてるところで、松川町ってところが、まず、今、日赤っていうものがありましたけれども、私の頃は病児保育っていうと健和会に朝連れて行って、そこで診てもらえるかを受診して、いっぱい書いて、結局1回も使わなかったですよ、行かないです。そこまで具合の悪い人をわざわざ、ね。例えば日赤やその付随する個人病院がぱっとそういうことに連携できないのかなっていうことを今伺ってて思いましたし、いっぱい書くことすごくわかりますし、でもアレルギーとかいろいろあるので難しいのかもしれないんですけど、消防団のことも、これだけ若い人たちが減っているのに、かつ納税してるのに、若い人たちが住みにくいってどういうことなんだろうと思って。もう私はおかげで終わったんでもういいんですけど、同じことをまた思ってるんだなと思ってすごく悲しいし、それを回避するための会議だったと信じたんですが、もう、同じやり方じゃ多分無理なので、当然、お年寄りの方いっぱいいるから、そちらにも重点を向けていかなきゃいけないんですが、若い人たちが結局社会を回しているんで、お年寄りの方も役割があると思いますが、そこら辺うまくできないのかなっていうことを、改めて思ったんです。このアンケートの取り方も、実は私、実家の父とか私の弟、こんなのやっているのを知らないって言っているわけですね。で、どうやってやってんのかってっていう感じで、すごくやっぱりこれ自体も閉鎖的なんで、なんかそういうアプリじゃないけど、ちょっと老人には無理ですけど、なんか健診に行った時にどうせ待ち時間あるんだから、認知的な検診、ちょっと皆さんお願いしますって、なんか1日居させられるじゃないですか。喜んで行くんだけどうちの父なんか。本当安心して行けるんでいいんですけど、ああいう時に暇じゃないですか。元気な人が暇なんで、ああいうところで書くとか。いっぱい書くと思いますよ。豊丘もあって、私、紙に超書いたんですよ。超書いたんですけど、どれだけ反映されたかわからんけどとりあえずいっぱい、今老人の介護もしてるし、子育てもしてるし、仕事もしてるから、もうありとあらゆること、不便なこと書かせてもらったんですけども、なんかこの調査の、これからのこの生きた政策にしていくために、皆さんがこれだけ尽力していただいたことがちゃんと反映されてね、数字に1でも2でも表れるためには、本当に血の通った、ずっと生き物を扱うようにしてかなきゃいけないし、現にここにもう2人困っている人がいるってこと自体も、もうこれ町を反映してると思うので、よくそこを踏まえていただいて、もし早急にここに関わっているっていう時点で問題意識が高い、何とも思っていない人もいますけれども、町のために、今後のためについていうとこあると思うんです。ですので、こういった方たちのご意見を是非、私が20年前に同じことを思ってたことまたおっしゃってるので、私の時はお父さんじゃなくて私は母親だったので、旦那は全然関知せずだったの

で。なんかすごく切なくて、なんとかならないかなって。病院ね、せっかくあるし、あと、こういったことがもっと簡単に、アンケートが取りやすい、わざわざ仰々しく郵便で来なくて、今高いから郵便料金が、だから町の人たちが集まらなきゃいかん時がどうしてもあるじゃないですか、地域の会合とか、ああいうのでもいいんですけど、ああいうのに持って配るなり、まあちょっとやり方はわかんないんですけど、行政のやり方。で、あともう1個、例えば商店、この買い物・飲食っていうところの部分についても、松川で面白いお店、大木島写真館とか、すまいるとか、和地電気さんとか、ああやってあの地域に根ざしてやってらっしゃる方たちに、スポットライト、なんていうの、ピンポイントで引っ張ってきて、やっぱり10年20年商売を営むって大変だと思うんですね。どういった工夫をされてるんですかっていうようなこととか、ああいった方たちは本当に工夫されて町外からお客さんと呼んでるので、そういったことにも目を向けていただきたいし、本当に努力されてる方たちがいるので、そのそういう方たちを大事にすることによって新しい人たちもまた入ってくる。今、誰かわからん新しい人たちに向けてばかりのような。まず、地域にいらっしゃる、今住んでる方たちの満足度が反映されるようなことを切に願うので、本当にご尽力いただいて有り難い。なんかまるでうんと良くなりそうな感じなんだけど、結局難しい、いろんなところに問題がまた出てくると思うんです。なので、私たちも努力しにやいかんと思うんです。役場だからやりやいいっていうんじゃないで、一人ひとりの努力でやっていく。だから、私たちにも当然責任を押し付けてもらって、皆さん良くするために、皆さんこれだけのこと負担してもらって、だからそのアンケートは書いてもらわなきゃと困ります、とか。選挙も同じだし、一つひとつのこと、子ども、小っちゃいからとか、年寄りだからとか、そういうこともなく、住んでいる人間が年代関係なくいい町になるようにっていうところで、そうすると、きっと松川町が元気になってくるかなって。外から見とってね。自分の故郷なので、元気でおって欲しいし、わかって欲しいなって思ってるので。すいません、なんの脈絡もなく。

(事務局)

それぞれの皆さんから貴重なご意見をいただいて、本当にありがとうございます。今のご意見で、ちょっと繰り返しになっちゃいますが、総合計画第5次、これまであったものって我々にとってみたら作るところがゴールになっちゃってるような感じになってて、じゃあそれを作って行政評価してるんですけど、自分たちの自己満みたいになっちゃってて、じゃあ本当に住んでる人たちはどうなんだっていうところがリンクしてないっていうかわかってなかったって部分も正直あったんです。で、1歩踏み出せたと思うのは、今回このウェルビーイングってものを使って、数値で表してきはするんですが、毎年、無作為ではあるので、全員の方にちょっといかないかもしれないんですが、アンケートを取って、どうなんだと、我々のやってることって本当にどうなんだっていうところを聞けるっていうところと、あと、そこのタイミングで、今日いただいたようなご意見って頂戴できると思うんですね。で、頂戴できる場を作ることができたっていうところが1つ成果だと思う

てます。で、我々がこう出向いて、いろいろご意見を聞く場が、本当はもっとあればいいんでしょうけど、なかなかそういうこともできない中の、地域の皆さんは、消防団だとか自治会の活動に本当にご尽力いただいているところは、町としても感謝しているところあります。で、なかなかこう成果が出せないっていうところもあって、本当に苦しいっていうところ、自分も消防団をやってたし、自治会にも入ってるしってところで、なかなか町として何かやってあげられないっていうところがあったりとかして、本当に申し訳ないとは思ってるんですが、今回の総合計画で少しでもこう前に進んでいきたいっていう町としての気持ちは持ってますので、その点はよろしくお願いしたいと思ってます。

(委員)

聞きたいんですけど、ウェルビーイング指標の、先に聞きたいんですけども、客観指標っていうのは具体的にどうやってとってるのかわかりますか。

(事務局)

客観指標っていうのは、アンケートにはよらずに、要するにこの国の持っているビッグデータであったりとか、いろいろな報告を県が統計を取っていたりとか、そういったものがあるんですね。そういったものから通常引っ張ってきているものになりますので、町民の方々の意思というよりは、そういったデータの方から拾い集めてる。1番最初の頃ですね、すごい細かい指標カタログみたいのをご覧いただいたかと思うんですが、そういったようなものを使って客観の偏差値を出してるというふうになります。

(委員)

わかりました。ていうので、ちょっと違和感を感じたのが、移動・交通のところを見て欲しいんですけど、使える公共交通にするための仕組みづくりってところで、この中に書いてるんですけど、交通機関（車に乗れない人のためのサポート、町外の人）って書いてある、ここの町外の人もっていうところめっちゃ頑張って欲しいとすごい思ってた。というのも、特に多分若者だと思うんですけど、松川町に清流苑とか、この前自分のバンドの仲間が、フルーツガーデン北沢さんの下のところにライブハウス、練習できるところがあるんですけど、そこで練習したんですよ。その時にすごい皆で話してたのが、交通の便悪すぎないってことを話してたんですよ。チョイソコまつかわとかあると思うんですけど、予約しないと使えないし、町外には使いにくいし、時間的にもなんか辛いところに手が届かないっていうか。町の人まあ使いやすいかもしれないんですけど、町外に行くのにめちゃくちゃ使いにくいなって話で。っていうところでこのデータを見ると、主観の移動・交通が33.9%に対して客観が42.4%で、客観の方が上回ってるんだなってすごい高く感じて。実はこれって大人が、大人からした客観指標だと、大人は車使えるんでどこでも行けるんですよ。けど、車が使えない若者からしたら、めちゃくちゃ公共交通使いにくいんですよ、松川は。だから、ちょっとデータで出ないのがすごい悔しいってところではあるんですけど、ここの公共交通機関（車に乗れない人のためのサポート、町外の人）っていうところは、かっこで町外の人もっていうところじゃなくて、もう意識的には、町外

の人はかっこを抜かして、町外の人向けの公共交通機関を整えるっていうカテゴリー作って欲しいぐらい、そこ、若者向けでも。せっかく松川はいいお店いっぱいありますし、若者が使いたいところもあるから、ちょっとそこを頑張ってもらって欲しいなっていうふうに、紙のデータを見て強く思いました。

(事務局)

ありがとうございます。鋭い考察を、その客観指標の罫と言いますか、っていうところをなんか暴いていただいたような、今気持ちです。自分が公共交通担当だってところもあるので、すごいちょっと今のご意見響いたんですけども。そう、この客観指標っていうのはですね、バス停からの徒歩圏内の人口カバー率とかそういったものになっちゃうんですよ。なんで、そのバス停に1日バスが1台来ただけでもカバーできちゃっている、そういうカラクリになってるんです。なので、どうしても客観指標の方は上がってしまっているんですが、ここでやっぱり見ていけないといけないのは、そうじゃなくて、こっちでしょ主観でしょっていうふうに私は認識しています。なので、客観に甘んじることなく、ここを上げていく、上昇させたいっていう想いがあって、ここは上昇とふうにさせていただいたっていうところであります。ただ、やっぱりお金の問題とかもあるんで、ちょっとすぐにはどうこうとかできないと思いますが、私と、そこにいる元木の方がですね、公共交通の担当のことでやらせていただいておりますんで、ちょっと今日のご意見っていうのは、しっかり若者にも使いやすいようにってところで、反映できるように頑張っていきたいと思いますので、発破をかけていただいたと思ってます。どうもありがとうございます。

(委員)

私も、今の成果指標のところに触れてくるところで、ちょっとお願いというか、自分も最近ちょっと感じたことを共有させていただけたらと思っておりますが、最初のこちらのプリントにある目標指標のアウトカム指標っていうところに切り替わっていくのはすごくいいなっていうふうに思ってます、これは本当に町でいろいろ活動されてる方にとっては、そういうところを見ていただけて有り難いというふうな転換になってるかなっていうふうに思います。で、これって測るのはどうやって測っていくんですかね。

(事務局)

それは、毎年アンケートを取って測っていくっていうような形になります。それをやるのと、客観データっていうのも、毎年デジタル庁の方で更新をしてくれますので、掛け合わせて分析をすることができるっていうふうになっております。で、あと、一応、念のためさっき言ったその全国の標準偏差値がわかるっていう設問が46あるんですけども、そうじゃなくて、うちの知りたいところじゃないよねっていうのがあったりするので、独自設問のところで9問もちょっと追加で入れさせていただきながら、実態を把握してくっっていうようなことを考えてます。

(委員)

そのアンケートっていうのが、この下の進捗管理のプラス3っていう部分になってくる

っていう認識で大丈夫ですか。

(事務局)

そうです、はい。そんな形になっております。どうしても統計上、年代別に人口按分とかそういうことしないといけないので、誰でもかれでも無作為にっていうわけにはいかないんですよ。なので、そうじゃなくて、その人口構成を見ながら、この世代の人からこれだけ抽出する、この世代の人からこうして抽出するというのはどうしてもやらないといけないので、そうしないとこのデジタル庁のフォーマットに合ってくることができないので、その取り方についてはどうしても無作為抽出になっちゃうってことです。

(委員)

わかりました。じゃあ、そこから出た数値をこう、目標値としての成果指標に反映させていくっていうふうになっていくと思うんですけど、是非それは次年、第6次でやっていただきたいなっていうところではありまして。で、自分もちょっと最近、町の方で商店街のこととかいろいろやらせていただく中で、やっぱりちょっと感じてるのが、例えば、いついつまでに成果を出さなきゃいけないって思っているけど、なかなか、じゃあ実際地域に入ってみて、今日も商店街にお住まいの方にちょっとヒアリングのお時間いただいて声を直接聞いてきたんですけど、やっぱりアンケートじゃ取りきれないような根深い課題とかが、実際住んでる方に聞くと結構出てくるんですよ。これってなんか本当にすぐに解決はできないけど取り組まなきゃいけないことだろうなっていうのを感じてまして。やっぱりそこを数値だけで判断されちゃうと、いつまで経っても触れられていかないでもう手遅れになっちゃうってこともあるんじゃないかなと思ってまして。やっぱりこれ見ると、こちらの40ページの地域のつながりだと、現状値、目標値が一緒に、考え方が維持になってるけど、実際に本当に声を、住んでる人の声を聞いていくと、またちょっと数字も変わってくるんじゃないかなっていうのを、実際ちょっと最近動いている中で感じてるところでもあります。あと、その前のページの38ページも、自然災害っていう領域の中で、成果指標が、自らの暮らしてる地域で防災対策がしっかりしているが維持で、さっきの消防団の課題も、課題がすごく深いけども数値としては維持になっちゃってるっていうのが、やっぱり自分も身内に消防団がいて、このやり方は家族が怒っちゃうっていうようなやっぱり体制が続いちゃってるので、なんか本当にもっと根本的に変えていくとか、力のかけ方をちょっと比重を変えてってもらわないと、なんとなくこれでよしとして進んじゃうのはちょっと怖いかなっていうのを感じるところがあるので、もちろんアンケートもやっていただきたいんですけども、例えば1つの案としてなんですが、松川町って集落支援員が多分すごくたくさんいる自治体だっていうふうに感じてまして、そういう方たちが、住んでる方の声を実際聞いて、それをきちんとまとめていったりとか、そういう1つ業務としてのタスクを入れてってもらおうと、ほんとにどこに力を注いでいくべきかとかがわかっていくんじゃないかなっていうのをちょっと最近の活動の中で感じたりしました。あと、ちょっとこちら見てて、抽象度が高くてわかりにくい言葉があって、保健福祉課の

重層的支援体制整備事業ってかっこで書かれてる項目が結構あって、いくつかの領域で書かれてあって、40 ページだと、地域とつながるの1 番下に地域づくり事業があるんですけど、これが保健福祉課で、これって何なんだろうみたいなところもあったり、いろいろ町で活動していると、じゃこれは産業観光課ですけど、こういう問題が出てきたときは保健福祉課に行ってくださいとか、それはまちづくり政策だねみたいな話になると、やっぱどこに行けばいいんだろうとか、横も示唆して一緒にやってくれるそういうのってないのかなみたいなことも考えちゃうんですけど、やっぱり地域づくり事業っていうと、結構ファジーな言い回しだなと思ってるので、そこをいろいろカバーしてくれる課であればいいなっていう希望として、はい、お伝えしておきたいなっていうふうに思っています。

(事務局)

地域づくりっていうフレーズって、都合がいいというか、ふうに時には使われちゃうってのがすごいあるなと思って。ここで言うこの地域づくり、なんで保健福祉課なのかってのは、その重層的支援っていうところをこの地域共生という枠組みの中でやっていこうよっていう流れがある中で、保健福祉課だったんですけども、その事業自体もそもそもそれってまちづくりなんじゃないのっていう、保健福祉課なのっていう議論もやっぱあったりする中で、どうしてもこの横の連携っていうのが、さっきの20 年前から変わってないよねって話にもつながると思うんですけど、どうしてもこう、自分の事業、自分の業務ってところに縛られちゃっているところはああると思うんですね。なんで、それを横で連携してくっていう仕組みは、絶え間なくやってますよね、役場としても。というところではあるんですけども、そういったような取り組みができるように横でつないでいくっていうのが総合計画だと思っておりますので、便宜上、24 の分野には分けてはいるんですけども、ここ以外のものについても、こういった部分についてはここで手伝ってるとか、そういったことが声をかけられるように、こんな計画を走らせていくことでやっていきたいと思っておりますので、また5 年もできてねえじゃねえかって言われるかもしれませんが、やっていきたいという思いはありますので、そこはちょっとご了承いただけたらと思っています。あと、なんでしたっけ、最初の方に言っていたのが、アンケートに偏らないっていうお話ですよ。それ、私自身もちょっと問題意識としてあって、これを入れたはいいんだけど、そのウェルビーイングのアンケートってやっぱり万能じゃないっていうのは、すごい調べれば調べるほどわかってきたんですよ。どうしてもちょっと都会向けな設問っていうのもあるし、この地域の実情には合っていない設問ってのも確かにあるんで、そこら辺については、私たちの方で見極めもしながら、ここでこう問えない部分についてはしっかりこっちの事業の方でも斟酌して見ていくというような形で、あくまでも機械的にやるんじゃなくて、ちゃんと人が見て、人が運用していくというところはやっていきたいと思いますんで、ただ、いろいろご意見があるんですけども、やっぱこういった場所に來られて意見言っていただける方の意見って、やっぱ大きい大きいんですよ。ただ、そういうことができない人もやっぱいるっていう中で、じゃあ、そうした人の意見はどう

やって聞けばいいんだって思った時に、こういったような形で、この場に来なくてもちょっとでも参加できるってやり方でこの地域の意識調査っていうのをやってこうっていうふうには考えておるので、その両方ですね、声を上げていただける方の声と、上げてもらえない方の声を両方ちゃんと見ながら、そこは人として、人の方を向けて運用していくっていうふうに考えておりますので、ご助言いただいたということで、しっかり覚えておきたいと思います。ありがとうございます。

（事務局）

今、話を聞いてて、これで数値で表されると、いや数値が上がっていいからいいじゃんみたいな職員が増えるんじゃないかなって、自分は思っちゃったんですね。地元へ行ってちゃんと話、課題を聞いてきたっていう話、それ、我々もしなきゃいけないことであって、それをしない職員が増えるんじゃないかなと思ってちょっと不安になったんで、そこら辺はそんなことがないように自分たちもやっていかなければいけないなってことを今、感じました。

（委員）

ありがとうございます。いや、でも、あの、ほんとに役場の方たちがすごくやっぱ業務が多岐にわたるっていうことだとか、すごくもういろいろな面で対応しなきゃいけないっていうのは、住民も理解できてる部分はあるので、何かそこを、職場、役場頼みになってしまうのではなくて、支援員みたいな方とか、もう少し何かこう業務を具体化して、これはやってくださいくらいの、請書を作るじゃないですけど、それくらいのことをやっていった方が、負担も増やさずにできることもあるのかなって思ったり、あとは、その逆に私たちにこういう課題を一緒になんとかして欲しいだとかそういう、町で頑張ってるらっしゃる方もたくさんいるので、逆にそういう投げかけてもらえることがあればと思うので、こういった対話の場をまた増やしていただけたらなっていうふうに感じておりますので。是非よろしく願いいたします。

（委員）

今、僕、大町病院っていうところにいまして、相手にしてる人口が3万人ぐらいで、業務としては病棟を見たり、外来をやったり、救急対応をしたり、あと訪問診療もさせていただいて、今後、地元に戻ってそういうことをしたいなとは思っています。で、今、積極的に訪問診療とかあんまりされている先生がいなくて、正直どれぐらいニーズがあるかというのがあまりわからないので、いろいろと医療・福祉のところに書いてはいただけてるんですけど、そういうところで、なんて言うんですかね、認知症の方も含めですけども、実際困ってらっしゃる方がどれぐらいいたり、通院が難しくなってる、生活が難しくなってるっていう方がどれぐらいいのかっていうのが、数字だったり実情が見えてくると、私としてはすごい有り難いなと思ってます。あとは、今、大町病院では僕みたいな働き方をしてる人がほかにも何人もいらっしゃっていて、そういうので交代しながらそうい

う業務を行えているところがあります。今、松川町で働いてらっしゃる先生方っていうのは、かなりご高齢の方が多くてですね、ちょっと医者1人だとなかなかニーズがある分をカバーともしきれないだろうなっていうふうに今考えていますね。なので、なかなか難しいんですけども、医師の確保というか、そういったところも是非、強化をしていただいて、今いらっしゃる先生方が辞める辞めないの時に慌てるんじゃないで、なかなか縁がない方だと、僕みたいに地元に帰ろうとかって思う方じゃないとなかなか難しいのかもしれないですけど、そういったところもちょっと注力をいただけるといいのかなというふうには思っています。

(事務局)

ありがとうございます。その担い手不足っていうところの視点については、この計画の策定趣旨ってところで、やはりその医療、教育、公共交通、施設維持管理、こういったもので及んでいるよってところは記載をさせていただいておりますが、具体的な数字とか、現状値ってところについては総合計画の方では載っていないところが申し訳ないところでございます。一方、そういったような医療体制の整備等につきまして、健康まつかわ21という計画がありまして、そっちの方も今作っているっていう中でありますので、そちらの方と連携を図りながら検討していきたいと思っておりますので、またよろしく願います。どうもありがとうございます。

(委員)

松川町って、20代、30代でしたっけ、流出と転入との差で、20代、30代の若い世代が流出しちゃってる。子ども、3歳から15歳以下でしたっけ、子どもの減少率が、他市町村と比べてめちゃくちゃ、24.4%マイナスみたいな、ほかと断トツで減っちゃってる、子どもがっていう、それって多分、耳が痛いっていうか見たくないところだと思うんですけども、でも、そこにヒントがあると思うんですよ。逆に言えば。何で20代、30代の子育てしている若い世代が、私たちの世代なんですけど、他市町村に流れちゃうのか。多分見たくないと思うんですけど、そこを見ないと、これに書いてあったんですけど、やります、やりましたからの脱却って書いてくださってるんですよ。で、どうだったのっていうところを、じゃあ第6次計画からそれやりますじゃなくて、第5次計画もこれで終わるところで、じゃあどうだったのって、痛いと思うんですけど、そこを見ないと多分変わらないと思いますっていうのを、ちょっと、ごめんなさい、辛口なんですけど、でも本音なので。で、ものすごくピンポイントで申し訳ないですけど、27ページの想定する取り組み10番。町内に通園・通学する園児・児童・生徒の給食費無償化ってあるんですよ。去年の10月から確かに無償化になってるんです。ただし、町内に通う方に限る。個人的に申し訳ないんですけど、うちは都合で町外の保育園に通っています。ということをごども課の窓口の方に、1度や2度じゃないです、まず、どうしてこういう決まりになっているんですかということは何度も聞きましたし、なぜそうなんですか、理由があるなら教えてください

てことで何度も聞いてるんですけども、納得する答えがもらえないんですね。どういう。松川に住んでるんですよ、うちもちろん。松川に住んで、町民税もお支払いさせていただいています。なんですけど、親の都合だったり子どもの希望だったり、町外の保育園を選んでいう、まあ多様性ですよ。そこで、なぜ、じゃあ町内の保育園に通っている人は無償化だけ、じゃ違うところの保育園に通っている人は無償化じゃないよっていうのを、なぜそこで区別するのかっていうのを聞いてるんですけども、明確な答えはもらえないだけでなく、なんて言うんですかね、ちょっとごめんなさい、個人的で申し訳ないけど、31ページの地域行政のところ、成果指標ですね、暮らしている地域の行政は地域のことを真剣に考えていると思うというところで43点というところで、そこ、なんと言いますかね、さっき血が通ったっていう言葉を聞いた時に、そこだなと思ったんですけど、対応してお話してくださる職員の方、ごめんなさい、前提として、役場の職員の方たちが一生懸命仕事されてることとか、たくさん業務を担っているってことはもうわかって、感謝した上で申し上げています。なんですけど、血が通っていないっていう感じの対応をされると、それがここに表れているかなっていうか。その1つだけじゃないんですけど。というのが心配というか。結局、人なので。今ここに書いてある全部のことって、全部外側というかハードじゃないですか。こういう目標でやります、こういうことをやりますって、全部ハード的なことって私は思うんですよ。それを結局実施するのって、私たち町民であったり、行政にいる職員さんだったり、人なんですよ。どういう気持ちで、どういうモチベーションでこれを使うかっていうところだと思うんですよ。なんか素晴らしいこれを作ったところで、例えば行政の人がもうモチベーションがない、疲れている、日々たくさんの業務で押し潰されそうだと。頑張れない、頑張れないっていうとちょっとあれなんですけど、どうモチベーションでこれをやっていくとか、こういうの作りましたじゃあこのとおり上昇に向かって頑張っていきましょうといったところで、その人自身が疲れていたりモチベーションがなかったりすると、上から言われてなんかやらなきゃいけないとか、義務感とかって続かないじゃないですか。どうやったらみんな楽しく、そうだね、そっちの方がいいよねって向かっていけるかっていうモチベーション、リーダーシップを誰が取るのかっていうところって、結構、見えないけど重要な、ここに書かれないんですけど重要なっていうふうに思っています。役場の職員の皆さんも、ご自身のウェルビーイング、幸せ指標を上げていって欲しいなと思います。はい、以上です。

(事務局)

ありがとうございます。まず、その第6次からじゃなくて、第5次の結果を直視せよというようなご意見だったかと思いますが、一応、今回作ったこの計画の中の、地域づくり、この場の会議のご意見も反映はさせていただいておりますし、前回の計画の反省点も行政評価というものを毎年やっておりますので、反映させながら入れているところで、ページ的に言うと上の方の、これ、でもないですね、ちょっと見当たらずで申し

訳ないですけども、設定基準っていうのを5つ設けさせていただいてるうちに、前回の計画の中の行政評価の中で、業務改善継続事業というのが課の方から上がってきたことについて、検討として入れたというふうになってますので、一応、前回の計画についても評価を終えて、ここにまた継続で反映させてるところはご了解いただきたいと思います。ただ、その評価のやり方については、今までこういったような数字ってものは使っていなかったんで、それは、担当あるいはと担当した課の主観、町民の主観じゃなくて、担当していた者の主観ってもので評価のベースができあがっているところがあるので、そこは今回の反省点というところで、次の計画からはそういうふうに振り返っていきますってことになりますけども、ちゃんと前回の計画についても振り返った上でこちらの方を作ってるってところで、ご了承いただけたらと思います。

あと、子育ての関係のお話の、今ケーススタディといいますか、ということでお伝えいただいておりますけども、その職員自身のモチベーションっていうところについてはですね、一応地域行政っていうとこの中にも、自ら課題を発見し解決できるような人材が育っていけるようにやっていきましょうっていうところで載せさせてはいただいております。確かに、うちの職場の研修とかって、教科書でお勉強するような研修がやっぱり最初の頃すごい多かったなっていうのがあって、そうじゃなくて、この人との会話、コミュニケーションといったところにもうちょっとフォーカスしたようなものについて、若いうちから鍛えていくっていうようなのが、それ研修で得られるものかなとかちょっといろいろちょっと思ったりもするんですけども、そういったようなところから職場の風土っていうのは作っていかないといけないなというふうにはちょっと思っております。係長クラスがそんな偉そうなこと言っちゃいけないですね。すいません、ちょっと出しやばりました。けど、そういったようなところで、一応問題意識ってところでは乗っかってるってことはご承知おきをいただきながら、また進めていきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

すいません。お約束のお時間あと5分っていうことになってしまいましたので、さあ、早口でこれだけは言っておきたいっていうものがございましたら、この場でお願いできたらと思います。

(委員)

さっきの数字だけを見ると、とか、この維持ってなると、それ以上が望まれないというか、この困ってる人の意見が反映されないなっていうところがあって、医療とか福祉とか取り組み1個しか書いてないですけど、実際、放課後デイサービスとかも、今うちはひまわりに行ってるけど、幼児が通える放課後デイサービスは松川にもないし、さっきの病児保育にも絡むけど、やっぱり看護師さんがいらっしやらないから、町の保育園だったり小学校っていう選択肢がまずない、医療的ケアがある子に関しては。ここら辺は、本当に松川からひまわりに来ているお子さんもたくさんいらっしやる中で、問題が目に見えてないっていうところが、やっぱり全員にアンケートを取られてるわけじゃないから、その困っ

てる人の意見をどっかで反映させてもらえたらなっていうのと、すぐには難しくてもこういう意見が出てるよっていうことで、そういうのじゃなくても、ここ数年内の取り組みで、じゃあ町内に1人なら看護師さん配置できますとか、どこかの小学校に1人だけとか、町の保育園どこか1人だけってなることで、やっぱり交流とかもあるけど、そこなら行けるっていう場所が1つでもあると、本当に身体的にも精神的にも問題ある子でも行きやすいのかなってところと、災害のところで、15番自然災害で、全部一括りにすれば、災害に強いところがあることとか、災害時に孤独を感じない信頼できる場所があるっていうのは、本当に子どもでも大人でも、一括りにしてしまったら本当にそうかもしれないんですけど、なってからの災害とかじゃなくて、災害が起こった時の知識とかっていうのも、せっかくここまで自治会とか消防団とか残ってる中で、今ある中でできること、炊き出しの練習を試してみたりとか、なったらどうするって、集合場所とか決めておくとかハザードマップだけあるっていうんじゃないくて、なんかそういうのをうまく地域の人たちとの連携だったりとか、あとは本当に、前もちょっとお伝えしたかもしれないんですけど、お年寄りとか、呼吸器使ったり、酸素使ったりとか、生きるために必要なことはどこに相談したらいいのかなって。災害時。うちも結局、電源ない時どうしようってなったけど、役場ではどうにもできませんってことで、中電に電話をしたら災害用のやつを電話をもらえれば持てきますとは言われたんですけど、そういう困った時にどうしたらいいかっていうのが一覧とかで。なんて言うんですかね、飲料水もそうだけど、ここにくればこうどれぐらいのものがありますとか、わかんないですけどあとは、ローリングストックじゃないけどそういうのをもうちょっと家でも推奨するだったり、災害の時のだけ使えるものじゃなくて、本当にいつどこで何が起こるかわかんない時代なので、もうちょっとそういうのを、普段の生活から取り入れられることとかっていうのを、一括りじゃなくって、具体的にみんなの生活の中で考える機会があったりとかがあれば、せっかく防災の日とかもあるので、ちょっと具体的なことが書いてあるといいかなと。維持。維持が、それ以上は望めないのかなとかって思うのがちょっと、いろんな意見が反映されている中で、全部は難しいと思うんですけど、まだ課題がある中で維持ってなると、これ以上は難しいのかなっていうのが見た目だけで判断すると感じました。

(事務局)

ありがとうございます。そう、維持ですよ。私もすごい、書いてて思ったりしたところではあります。この維持っていう中にも、いい維持と、どうしようもない維持があるっていうのは、やっぱりあるかな、整理しないといけないなっていうのは思いましたっていうのと、あと、困った時どうしようって話ってのは、それって、総合計画どうこうの前に、広報としてやっぱり大事な観点だなって今すごい思いました。自分自身もこうなった時どうすればいいのかって、言われてみればわかんないことってすごいあるので、そういったようなものを、住んでる方、皆そうだと思うんですよ。なので、そういったものをちゃんと、年に1回かどうかわかんないですけど、アップデートしていくっていうようなやり方

は必要なことなんだなというふうに今すごい感じましたので、またそこはどういう形で反映できるかあれですが、ご意見として承りたいと思いますので。ありがとうございます。

(委員)

チョイソコ、さっき使い辛いところもあるっていう話があって、私も本当に町外の人どうやって使ったらいいんだろうなとか思ったりしてるんですけど、チョイソコになってピンポイントで移動できるようになったじゃないですか。前は路線でね、フルーツバスが動いてたけど。でも、そのピンポイントで動けるのはすごく私は便利になって。そうってみるまで自分でそういうリクエストって特になかったんですよ。こういうもんだから、時間通りに動いてるものだから、使えない場合は仕方ない。でも、ピンポイントで動けるようになって、娘が学校からプールまでプール教室の時に乗ったりとか、あと、最近 Hug を利用しているんですけども、上片桐の改善センターからから自宅まで、チョイソコで帰ってこれたりとかっていうのが、本当にこれ、前だったら使えなかったんだよなと思って。山の上から降りてきて娘を拾ってまた帰るとかを何回もしないといけないうようなことがあったんですけど。だから余裕ができる。それがとっても嬉しくて。何が言いたいかっていうと、そういうふうにシステムを変えてくれて、便利なことを増やしてくれるとメリットを感じる人がいる。すごい当たり前のことなんですけど、それを感じました。最近とっても。だから、難しいこと、お金のこととか人材のこととかたくさんあると思うんですけど、1個ずつでもそういう便利なこと、みんなが嬉しいと思うことをちょっとずつでも増やしていただけたらとっても嬉しいなって思います。当たり前のことなんですけど、そんなことを思っていました。

(事務局)

チョイソコの関係については便利にはなりましたよ、でも、お客様から運賃は頂戴いたしますよっていうところのこの対価交換、トレードをしてるっていうような仕組みになっております。それで、やっぱり先ほどの池野さんのお話であったり、北林さんの話の中にあっても、やっぱりその子育てっていうところで、どうしても金銭支援っていう方に目がいつちゃうんですけど、そうじゃなくて、そうですね、北沢さんの方でもありましたけども、手間になる部分についてをどうサポートできるかっていう、そういった視点っていうのは、これから見ていかないといけないなっていうのがすごい思った。この会議に私出て、皆さんのご意見もらった中で、それやんなきゃいけないなっていうのはすごい思ったってところでありましたんで、チョイソコについても、かゆいところに手が届くようなものに仕上げていけるように今後も検討してまいりたいと思いますし、やはりこういった会議はやっぱりそれなんで、入れ替わり立ち替わりいろんな職員が出た方がいいなっていうのは今すごい思いました。毎回同じメンバーであれしてくんじゃなくてっていうのもありましたんで、ちょっと一部、ほかの係にも入ってもらったりもしましたけども、そういったような中で、実際の現場のご意見と、それを組み立てる側の意見の擦り合わせっていうのができるような仕組み作りっていうのは、今後も必要だなっていうのはありましたので、どうも

ありがとうございました。

というわけで、ちょっとすいません、5分時間をオーバーしておりますので、そういったようなところでよろしいでしょうか。

そういうわけでございまして、今日、ぱっと出して、ちょっと意見出ないかなと思ったんですけど、すごいこんなにご意見を出していただいて、やっぱりここに集まった皆さん方って、想いを持って来ていただいている方なんだなっていうのを再認識させていただきましたので、地域づくり会議っていうのはここで一旦終了ではございますけれども、これからいろいろとあるかと思いますので、そういったところでは是非ともお声がけをさせていただきまして、松川町を良くしていけるように一緒に考えていただけたらと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

今日ちょっと言い足りなかった部分とかにつきましては、また今後、パブリックコメントっていうところもちょうと用意させていただいておりますので、そういったところでも書いていただいても結構ですし、お二方につきましては、また来週、審議会ということで、この会議の代表ということでまたちょっと来ていただきますけど、そういったところでもまたご意見等いただけたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

はい。では長い時間、最後までお付き合いいただきありがとうございました。半年間という、非常に濃い時間を皆さんと過ごさせていただいたこと、本当に感謝申し上げます。

では、第6次総合計画に向けた地域づくり会議ということで、プログラムの方を終了したいと思います。どうもお世話になりました。ありがとうございました。